

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	呼吸器疾患における、DPC 病名の妥当性の検証
研究責任者	栗野 暢康
研究機関名	日本赤十字社医療センター 呼吸器内科 共同施設：東京大学大学院 医学系研究科 ヘルスサービスリサーチ講座、東京大学医学部附属病院 呼吸器内科
研究目的と意義	<p>【背景】</p> <p>医療データベースは医学研究に広く利用されています。特に、日本の DPC (Diagnosis Procedure Combination) データベースは、臨床疫学研究に広く利用されています。医療データベースの研究利用は、データベースが健康状態やサービス利用に関する正確なデータを提供するという前提に基づいています。不正確なデータを使用すると、結果に偏りが生じる可能性があるため 医療データベースに記録されている情報の検証が不可欠です。呼吸器内科領域において、DPC データベースが正確であるかを検証した論文はありません。</p> <p>【目的】</p> <p>本研究の目的は、電子カルテ閲覧の結果を参照基準として、DPC データに記録された呼吸器疾患の病名の妥当性を評価することです。</p>

<p>研究方法</p>	<p>以下の1~7は、日本赤十字社医療センター呼吸器内科ならびに東京大学医学部附属病院呼吸器内科において、別々に実施いたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2019年4月1日から2021年3月31日までの期間に呼吸器内科を受診（入院、外来、救急外来、コンサルト）された全患者さんを抽出し、患者リストを作成します（=全IDリスト）。リスト作成の際に、ID以外の個人情報には抽出いたしません。 2. 全IDリストのうち、2019年4月1日から2021年3月31日までの期間に入院された患者さんを抽出し、患者リストを作成します（=入院IDリスト）。入院IDリストには、入院日、退院日、DPCデータ=全病名、入院診療科が含まれます。なお、この入院は呼吸器内科が主科となった入院だけでなく、他科に入院された場合も抽出いたします。 3. 入院IDリストのうち、各病院でランダムに200人の患者さんを抽出し、電子カルテを閲覧する患者リストを作成します（=閲覧患者リスト）。 4. 各病院において、異なる2名の医師が、独立して閲覧患者リストの電子カルテを閲覧し、「カルテ記載病名」をまとめます。 5. DPC病名とカルテ記載病名のうち、呼吸器疾患に関連するもの病名（例：肺がん、間質性肺炎、肺炎、喘息、COPDなど）を特定します。 6. 2病院のデータを統合します。 7. DPC病名とカルテ記載病名を照合し、DPC病名の感度、特異度、陽性的中率、陰性的中率などを算出します。 <p>この方法は後ろ向き観察研究という方法で、新たに患者さんへ負担はかかりません。匿名化（個人名を消去し、代わりに番号などを付与して処理を行うこと）を行うことで、誰のデータか分からないようにし、統計解析を行います。その結果は、疫学や呼吸器学に関する学会や医学雑誌に公表されることがあります。</p> <p>研究に組み入れられることを希望されない方は、担当医や下記の問い合わせ先にお知らせください。その場合、データ収集や統計解析は致しません。</p> <p>研究に同意されない場合であっても、患者さんに不利益を及ぼすことはございません。</p>
-------------	--

問い合わせ先	東京大学医学部附属病院 呼吸器内科 〒113-0022 東京都文京区本郷 7-3-1 担当者：漆山 博和 TEL : 03-3815-5411 FAX : 03-3415-5954
--------	--